



仙台まちづくり
若者ラボ2025



2025年度

スタートアップが
生まれるまちづくり

2026/01/31

CONTENTS

- 01 スタートアップって何？
- 02 スタートアップの定義
- 03 インタビュー
- 04 ACTION
 - 動画・NOTE
 - 動画実演
- 05 まとめ



スタートアップ
ってナニ???

スタートアップとは？

- メンバーのほとんどがスタートアップを知ることから始まった

みんなの最初のイメージ



- 結論

スタートアップを起こすというよりそこで働く従業員の考えを知り、認知度を上げ、イメージを良くしたい！

スタートアップの定義

スタートアップの定義

● 実際のスタートアップの定義

革新的な技術やビジネスモデル（イノベーション）を基盤に、短期間での「急成長」と「社会課題解決」を目指す企業のこと

● チームでの定義

- 5～8年前に立ち上がった企業やサービス
- 新たな挑戦を行った人



定義を定めた上での活動の方針

● スタートアップの認知

自分たちを含めてスタートアップに対するイメージを変えることができればスタートアップがより盛んになるのではないか！

● 企業へのインタビュー

- ・ スタートアップは創業者が注目されがちだがそこで働く人はどんな思いで働いているのか？
- ・ スタートアップの従業員の実情は？



インタビュアー



神尾さん

株式会社INTILAQ

仙台を拠点に活動する2015年創業の企業。起業家支援や学生向けのアントレプレナーシップ教育を中心に活動している。震災を機に設立され、挑戦の心を育むプログラムの運営や、大学の研究成果の事業化支援を担っています。

神尾さん

茨城県出身。岩手県の大学を卒業後、岩手県にある温泉旅館で観光企業(DMO)にて2年間務めたのち、INTILAQに入社。新しく事業を生み出す起業家の支援や、アントレプレナーシップ教育プログラムの運営、さらに大学の研究成果を会社で事業化するための支援等も行っている。

インタビュー

- 3%ルールの実現： 仙台にいる約8万人の大学生のうち、毎年3%がアントレプレナーシップを醸成される状態を作ることが目標となっている。
- 働き方と私生活： フレックスタイム制を活用して育児と仕事を両立し、並行して大学院の修士論文執筆にも取り組む。
- 大切にしている価値観： 血縁を超えた地域の繋がりの中で子供を育てる「フリースタイル」な生き方を実践している。
- 仕事への信念： 単なる「支援」ではなく、東北にあるものから「面白い仕掛け」を一緒に作れる仲間を増やすことを重視。



HERALBONY



ヘラルボニー
田村さん

HERALBONY

岩手県盛岡市に本社を置く2018年創業の企業。障害のある作家のアートをIPライセンスとして活用し、経済性と社会性の両立を追求するビジネスを展開している。岩手から世界へ「違いが混ざり合う社会」の実現を目指すスタートアップ企業。

田村さん

仙台育ち、アブダビ大学卒。2023年に新卒入社し、現在は岩手事業部で自治体や企業とのアート共創企画を担当。大学で学んだサステナブルな経営モデルを軸に、岩手から「違いが混ざり合う社会」の実現を目指し、地域に根ざした事業開発に邁進している。



インタビュー

- 入社 の 動機：大学で学んだ経済・環境・社会性を両立する「サステナブルな経営モデル」を体現する姿に惹かれ、入社を決意。
- 岩手事業部の役割：地元企業や自治体の課題に丁寧に向き合い、アートで解決することで「岩手から世界へ」の土台を築く。
- 意識の変化：障害を属性ではなく一人の「人」として捉え、対等な関係を築く重要性を現場経験から学んだ。
- キャリアの姿勢：インターンを通じた相互理解と、幅広い業務を厭わない柔軟なマインドが不可欠である。



会社

株式会社カンテラ仙台

2025年8月に創業したばかりのスタートアップ。
仙台の地場企業の若手採用代行と、DX代行の二軸で事業を展開している。代表の齋藤は生まれも育ちも仙台で、地元を元気にするために東京からUターンして起業した経緯がある。

齋藤さん

元公務員志望の安定志向から転身した起業家。
大学時代のインターンをきっかけに、柔軟な働き方を求めて起業の道へ進んだ。現在は新会社を経営し、仕事と生活を融合させたスタイルで、教育を通じた次世代の育成にも情熱を注いでいる。

齋藤さん



インタビュー

- 起業の経緯：元々は公務員志望の安定志向でしたが、**大学時代のインターン**や、業務への違和感をきっかけに起業の道へ進んだ。
- 仕事観とやりがい：**仕事と生活を融合**させ、1日12時間以上働くスタイル。できないことを克服し、自己成長することに強いやりがいを感じる。
- 失敗への捉え方：失敗を単なるミスではなく、**次の意思決定のための「良い判断材料」**と捉える柔軟な思考を重視。
- 将来の展望：教育を通じた**次世代育成**に注力している。**自らを「踏み台」**にして若者が成長し、その経験をさらに下へ継承していく循環を目指す。



ATOMica



ATOMICA
小野寺さん

株式会社ATOMica

株式会社ATOMicaは、「あらゆる願いに寄り添い、人と人を結び続ける」をビジョンに掲げ、仙台の共創拠点YUI NOSを運営している。独自のコミュニティマネージャーが利用者の願いを繋ぐ役割を担うほか、行政と連携したスタートアップ支援も一括で行っている。

小野寺さん

株式会社ATOMicaのコミュニティマネージャー。前職の観光協会での新規事業経験を活かし、現在はYUI NOSにてスタートアップ支援を担当している。利用者の願いを専門家等へ繋ぐ「最初の窓口」として、起業家の挑戦に日々伴走している。



インタビュー

- 「最初の相談窓口」：アイデア段階から専門家への橋渡しまで、回数制限なく起業家に伴走する。
- 多様性と交流の創出：行政・大学・企業が混在する空間の「近さ」を活かし、雑談から革新を生む。
- 「ウィッシュ・ノット」：利用者の願い（Wish）を拾い、人と人を結びつける（Knot）独自の仕組み。
- 起業の裾野拡大：起業を身近な選択肢として広め、仙台からユニコーン企業の創出を目指す。

A C T I O N

(動画・note)

ACTION

- **note**にアウトプット

インタビュー等の調査より得られた情報をnoteにて記事や動画にて出力
若者中心にスタートアップの魅力を知ってもらいたい！



株式会社HERALBONY



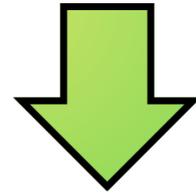
株式会社ATOMica

動画実演

まとめ

まとめ

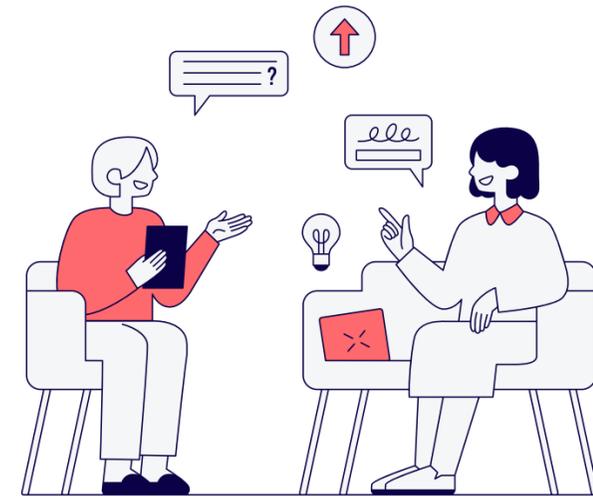
「よく分からないスタートアップ」について自分たちが知りたい！



スタートアップの定義づけをし、働く従業員へインタビュー

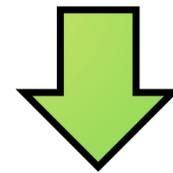


Webの記事などでは感じ取れないインタビュアーの
想いや考えを身をもって知れた！
スタートアップへの考え方や想いを
真正面から考えるきっかけになった！

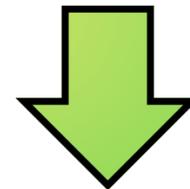


まとめ

自分たちが**学んだことを多くの人に広め、**
スタートアップのイメージ向上を図ろう！



インタビュー内容を**AIを活用しながら動画やnoteに公開**



スタートアップで**働く人の価値観や魅力を発信できた！**
(ついでにAIの扱い方について知ることができた！)



今後の展望

今回の活動より、スタートアップで働く人のリアルな声や経験を伝えることが、スタートアップに対する心理的な距離を縮めるきっかけになると考えられる。

今後は、行政や関係機関による情報発信においても、そこで働く人の視点を取り入れることで、若者が将来の選択肢としてスタートアップを捉えやすい環境が整っていくのではないかと。



ご清聴

ありがとうございました